



[発行所]

中友会

港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL 03-3504-8705
FAX 03-3504-8706

会則第2条

●親睦
●互助
●生涯学習

<http://chuyu-kai.org/>



合祀慰霊祭を終えて

中友会会長 草野 一紀

この会報が皆様のお手元に届く頃は、真夏の太陽が照りつけているかもしれません。私は今、梅雨空を見上げながら6月4日のことを振り返っています。梅雨入り直前ですのに大気が不安定になっており、前日には激しい雨に見舞われ、所によつては雹が降りました。5日からは天気が崩れ、6日には例年より早く東京も梅雨入りしました。4日の日が好天に恵まれたのは幸運というしかありません。私どもは、「願いが通じた」という思いで、合祀慰霊祭を迎えました。

この会報第119号は、9月の発行予定であったものを前倒しして発行したもので、第18回合祀慰霊祭の報告をテーマに編集しました。慰霊祭に参加できなかった多くの皆様のためにも、また、この合祀慰霊祭は私達中友会がもっとも大切に行っている行事であることを改めて多くの方々に知っていただくためにも必要と思つたからです。

昭和42年に設立した本会は、同年に第1回の合祀慰霊祭を開催しました。以後3年ごとの開催を

続け、多くの物故者の御霊を供養してまいりました。コロナ禍により1年延期をした第18回の今回の246名を加えると、これまでに2870名の御霊の追悼供養をしてきたこととなります。物故者全員の追悼供養を行うということは、もちろん以前から知っていました。物故者全員のお名前が記帳された霊位帳を護国寺に安置することは、会長に就任して初めて知りました。実際に、今回の霊位帳を納めさせていただいた折りに、これまでの全ての霊位帳を確認させていただきました。50年以上に及ぶ歴史を垣間見るにつけ、この慰霊祭の意義の深さに改めて感銘を受けました。

この慰霊祭が約半世紀もの歴史を刻んでこられたのは、会としての努力は勿論ですが、この取組についての護国寺様の深いご理解と多大なるご支援があつて続けてこられたということも強く感じました。今回も、貫首小林大康大僧正をはじめ、7名もの識衆がこの追悼供養にかかわったことから、それがうかがえます。また、都民互助会の

協力も忘れてはならないと思ひました。実に細かいところまで配慮され、前日の設営から始まり、慰霊祭の円滑な運営に大きく貢献されました。護国寺と都民互助会のご支援、それに、参加できなかった方も含めた会員の皆様のご想いによつてこの合祀慰霊祭は成り立っているのだと思ひます。私たちが担当者が慰霊祭を動かしているのではなく、皆様方のご支援によつて刻まれた歴史の重みが、私たちを動かしているのだと感じました。

今回の合祀慰霊祭の評価につきましては、主役であるご遺族の皆様からのメッセージとご来賓や参列された方々の感想から判断し、次回につながるよう記録として残してまいります。ご報告とともに、皆様のご理解・ご協力に改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

なお、例年合祀慰霊祭と同日に開催していた総会は今回、別開催とさせていただきますでしたが、この会報でご案内するように8月の開催を予定しています。コロナの感染予防から、懇親会は行わないことにしましたが、会員の皆様も参加する3年ぶりの総会です。多くの会員の皆様に足を運んでいただくことを願っています。

また、前回の会報の巻頭言でも述べさせていただきましたが、まず、学校の現状を理解することが大切と考え、来賓である現職の校長先生から現在の教育界の動向や学校の現状と課題等についてお話をいただく、という研修の場を用意する予定です。どうかよろしくお願ひいたします。

多くの会員の皆様とお会いすることを楽しみにしております。